

# 2017年3月期 第2四半期決算説明会

2016年11月7日

**資料取り扱い上の注意**

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。

株式会社SCREENホールディングス  
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者（CEO）

垣内 永次

本日のアジェンダ

1. 2017年3月期 第2四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画の進捗

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

1. 2017年3月期 第2四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画の進捗

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

連結業績 <2017/3月期 第2四半期>

(億円)	2016/3月期						2017/3月期			増減	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	前上期比	
売上高	561	737	1,298	530	768	2,596	622	738	1,361	63	4.9%
SE	347	472	819	320	517	1,658	412	503	916	96	11.8%
GP	147	165	313	138	161	612	114	146	260	▲53	▲16.9%
GA(印刷関連機器)	126	140	267	124	130	523	96	124	220	▲46	▲17.4%
PE(プリント基板関連機器)	20	25	45	13	30	89	18	21	39	▲6	▲13.8%
FT	63	96	159	69	87	315	93	86	179	20	12.6%
その他および調整	3	2	5	2	2	10	1	2	4	0	▲16.1%
営業利益	32	75	108	41	85	235	51	70	121	13	12.7%
営業利益率	5.9%	10.2%	8.3%	7.9%	11.2%	9.1%	8.2%	9.6%	8.9%	—	0.6pt
SE	21	58	79	30	77	187	43	60	103	24	31.1%
GP	9	7	17	4	9	31	▲1	10	8	▲8	▲49.5%
FT	1	14	15	6	5	27	12	5	17	1	11.8%
その他および調整	0	▲4	▲4	0	▲6	▲10	▲3	▲5	▲8	▲4	—
経常利益	34	71	106	41	84	231	50	66	116	10	10.1%
親会社主に帰属する 当期純利益	22	62	84	34	68	188	37	57	94	9	11.7%

SE：セミコンダクターソリューション事業 GP：グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業  
FT：ファインテックソリューション事業

2Q決算の訴求ポイント>>

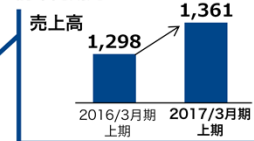
- 前年同期比、増収増益 63億円の売上増(4.9%)、13億円の営業利益増(12.7%)、9億円の純利益増(11.7%) でした。
- SEセグメントは、2Qの受注が1Q(491億円)を上回る高水準 (533億円) となり、想定より上振れました。半期で1,024億は過去最高。この状況を受け、下期と通期を上方修正しました。
- FTセグメントの受注が、4四半期連続で100億円レベル (111億円) で高水準が続いています。
- CCC(キャッシュ・コンバージョン・サイクル)の改善が進み、1Qで達成したネットキャッシュポジションを2Qも維持できました。

連結業績サマリー <2017/3月期 第2四半期>

前年同期比

(億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	上期	上期		
売上高	1,298	1,361	63	4.9%
営業利益 営業利益率	108 8.3%	121 8.9%	13 0.6pt	12.7%
経常利益	106	116	10	10.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	84	94	9	11.7%

前年同期比



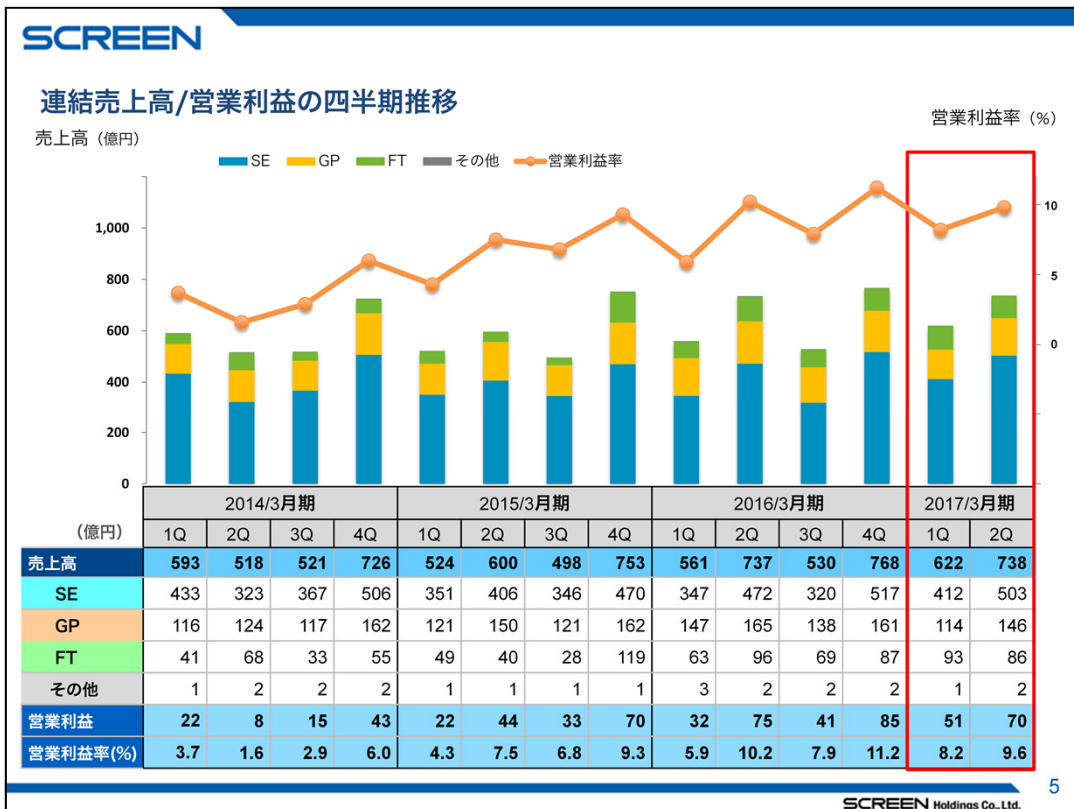
営業利益



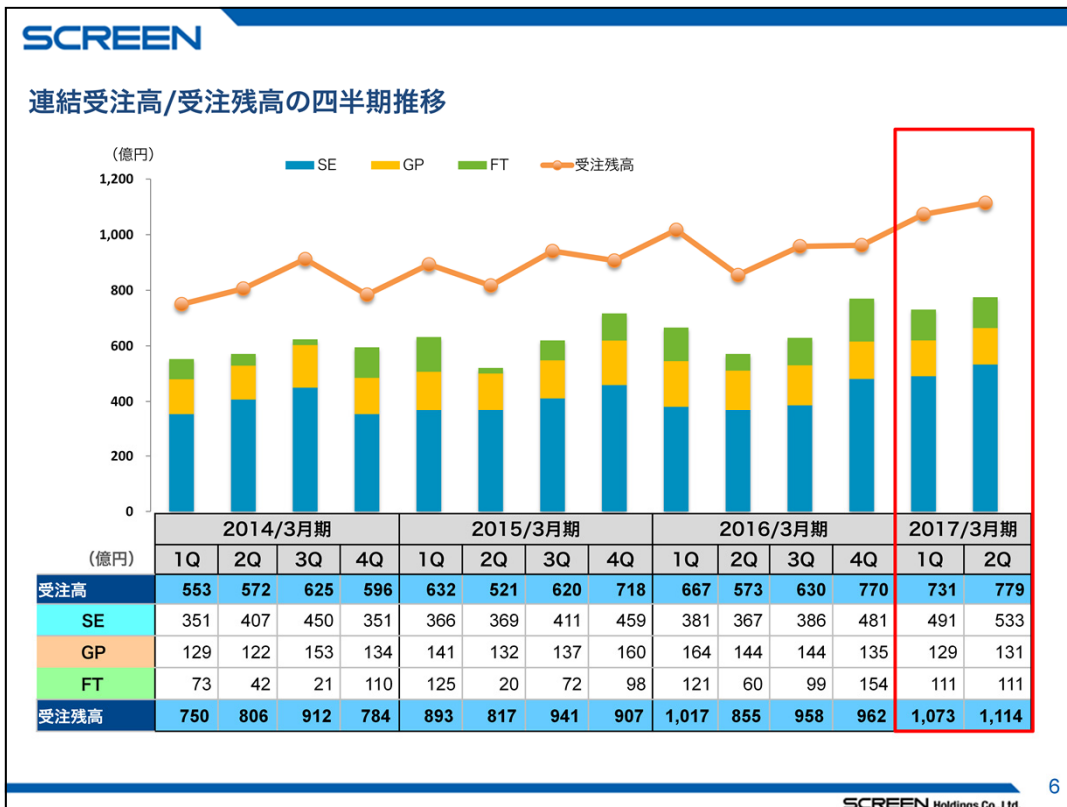
前四半期比

(億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	1Q	2Q		
売上高	622	738	116	18.7%
営業利益 営業利益率	51 8.2%	70 9.6%	19 1.3pt	37.8%
経常利益	50	66	15	31.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	37	57	20	54.5%

- 対前年同期比(上期)では、増収増益(SE、FTが増収増益)でした。  
営業利益に関しては、売上増加などが主要因です。
- 対前四半期比(1Q vs 2Q)では、増収増益(SE、GPが増収増益)でした。



前年同期比で増収増益となり、上半期計では、SEとFTの好調な業績により、売上(1,361億)、営業利益(121億)、営業利益率 (8.9%) が、リーマンショック以降最高値となりました。



- 2Qの全社の受注高（776億円）は、1Qに続いて高水準となりました。
- 2QのSEの受注高は、1Qの491億円を上回り、533億円と、想定より上振れました。
- FTの受注高は、4四半期連続で100億円レベルになりました。
- 2Qの全社の受注残高は1,114億円と高水準であり、上記いずれも、リーマンショック以降最高値です。

1. 2017年3月期 第2四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画の進捗

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）



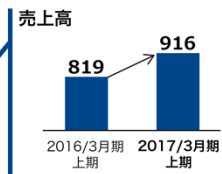
セグメント別業績概況 <SEセグメント>

前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	上期	上期		
売上高	819	916	96	11.8%
営業利益 営業利益率	79 9.7%	103 11.3%	24 1.7pt	31.1%

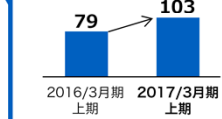
  

前四半期比 (億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	1Q	2Q		
売上高	412	503	90	22.0%
営業利益 営業利益率	43 10.5%	60 12.0%	17 1.5pt	39.7%

前年同期比



前年同期比



トピックス

- 1Qに続き、ファウンドリーの微細化投資、フラッシュメモリ（3D-NAND）の積極投資が活発であり、前年同期比、増収増益。
- 通期に関しても、ファウンドリーの微細化および3D-NANDへの積極投資が続き第1四半期決算時（8月）より上振れを予想。

- 前年同期比、前四半期比ともに、増収増益でした。

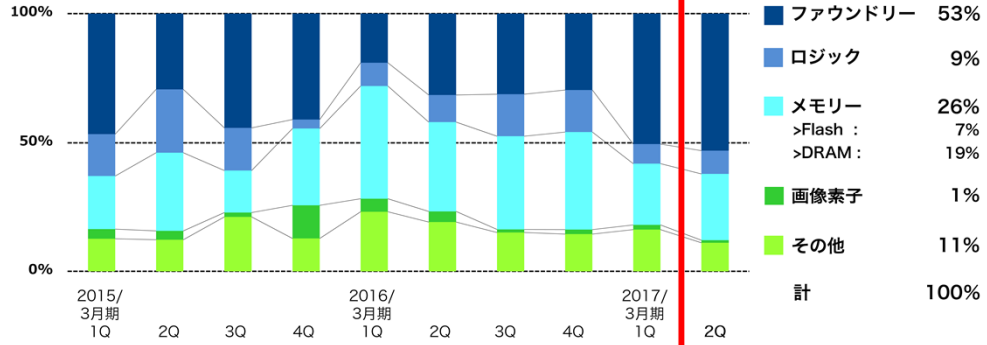
ファウンドリーとフラッシュメモリ（3D-NAND）が売上を牽引しました。装置としては、枚葉・バッチともに増加し、地域としては、アジアの伸びが顕著でした。

- 通期予想では、ファウンドリーの微細化、および、3D-NANDへの積極投資が続くと見ており、第1四半期決算(8月)予想から上方修正しました。

デバイス別/地域別受注比率・四半期推移 <SEセグメント>

単独・デバイス別受注比率

\*ご参考：連結受注高 533億円



地域別受注比率(2017/3月期 2Q)



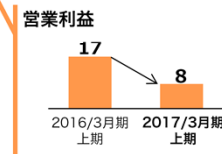
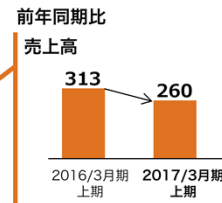
- 2Qの受注高は、533億円と、好調であった1Q(491億円)をさらに上回りました。
- デバイス別では、1Qに続き、ファウンドリーが好調で比率が全体の50%以上になりました。
- 3Qの受注は、1Q、2Qと比較して、一服感はあるものの、引き続き高水準を予想しています。

セグメント別業績概況 <GPセグメント>

前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	上期	上期		
売上高	313	260	▲53	▲16.9%
営業利益 営業利益率	17 5.7%	8 3.4%	▲8 ▲2.2pt	▲49.5%

前四半期比 (億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	1Q	2Q		
売上高	114	146	31	27.5%
営業利益 営業利益率	▲1 ▲1.2%	10 7.0%	11 8.2pt	—



トピックス

- 上期は8月予想より減収減益するも、売上・営業利益ともに2Qはdrupa前の買い控えがあった1Qの落ち込みから回復。下期も円高影響はあるが、海外を中心にPODの販売拡大を図り、改善が継続。
- PEは、変化の激しい電子デバイス業界に対応できるよう、GPから分割、独立事業会社に（2017年4月営業開始予定）。

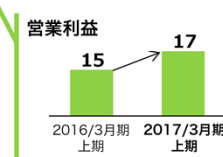
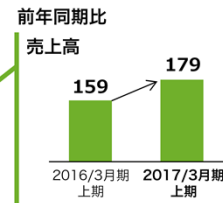
- 前年同期比では、上期は減収減益するも、2Qは1Qよりは売上・営業利益ともに改善し、この傾向は下期も継続する見込みです。

セグメント別業績概況 <FTセグメント>

前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	上期	上期		
売上高	159	179	20	12.6%
営業利益 営業利益率	15 9.9%	17 9.9%	1 0.0pt	11.8%

前四半期比 (億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	1Q	2Q		
売上高	93	86	▲7	▲7.7%
営業利益 営業利益率	12 13.5%	5 5.9%	▲7 ▲7.7pt	▲60.1%



トピックス

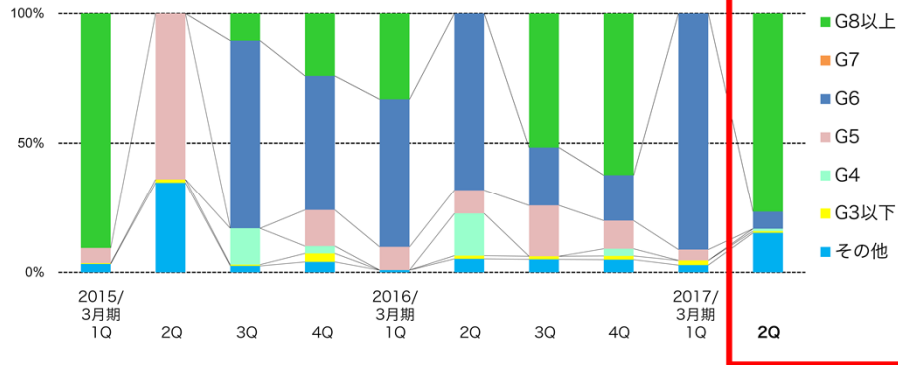
- 上期は、前年同期比、中国向けの大型パネル用の売上は一時的に減少するも、国内や台湾向けの中小型が売上増加。
- 受注環境は1Qに続き好調。3Q以降もLCD、OLEDなど新規領域も堅調に推移する見込み。

- 前年同期比では、上期は、増収増益でした。  
中国向けの大型パネル用装置は全体の20%強で売上は減少するも、国内や台湾向けの中小型が70%弱を占めました。
- 前四半期（1Q）に比べて2Qは、減収減益でした。
- 受注環境は好調で、4四半期連続で100億円レベルの高水準を維持しました。

製品サイズ/地域別受注比率・四半期推移 <FTセグメント>

単独・製品サイズ別受注比率

\*ご参考：連結受注高 111億円



地域別受注比率(2017/3月期 2Q)



- 2Qの受注高は、前四半期1Q同様に111億円になりました。
  - 受注の中身は、大型が80%弱、中小型は10%程度でした。
  - 地域別では、中国が80%程度でした。
  - OLED関連や新規事業も入っています。
  
- 3Qの受注も、引き続き好調が続くと予想しています。

1. 2017年3月期 第2四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

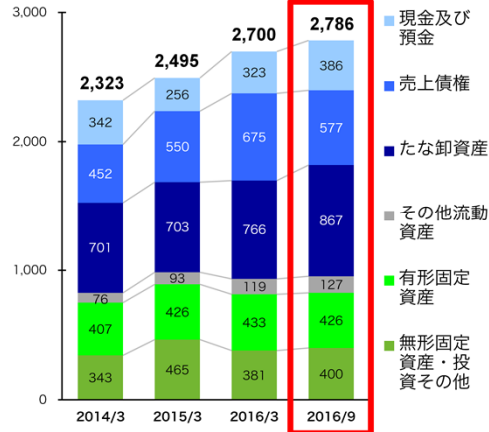
5. 中期3カ年経営計画の進捗

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

連結貸借対照表

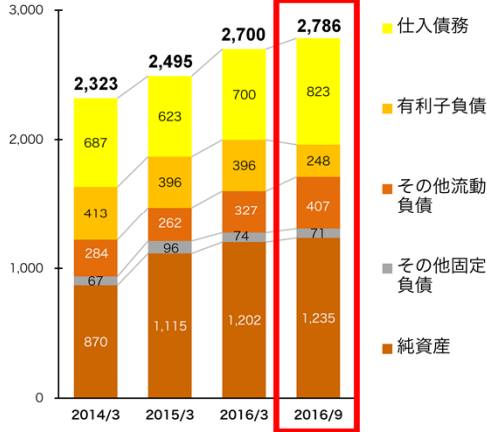
資産

(億円)



負債および純資産

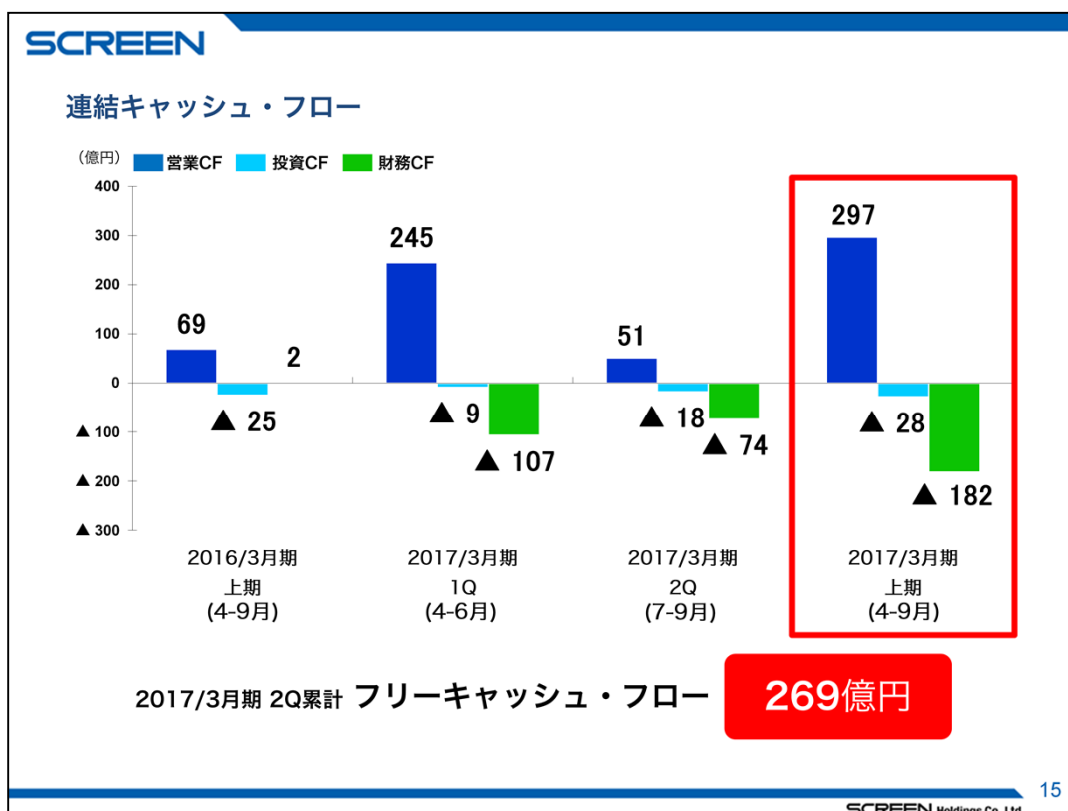
(億円)



自己資本比率 44.3% (2016/3月末) → **44.3% (2016/9月末)**

前期末 (2016/3月末) との比較 :

- 資産合計は2,786億円。前期末比では、85億 (3.2%) の増加しました。  
受取手形及び売上債権 (売掛金) が減少した一方で、現金及び預金やたな卸資産が増加したことなどにより増加しました。
- 負債合計は1,550億円。前期末比では、52億円増加しました。  
有利子負債は、248億円。社債 (6月と9月) を償還したことなどにより、前期末比148億円 (37.4%) 減少した一方で、仕入債務や前受金の増加などにより、増加しました。
- 純資産合計は1,235億円。前期末比では、32億円 (2.7%) 増加しました。  
円高の影響により為替換算調整勘定が減少した一方で、(親会社株主に帰属する四半期) 純利益を計上したことにより利益剰余金が増加しました。
- 自己資本比率は44.3%で、前期末と同じとなりました。  
通期末に向け、50%以上を目指しています。



当第2四半期連結累計期間（2016年4月-9月）におけるキャッシュフロー

●営業活動によるキャッシュ・フロー：297億円の収入

各事業会社が継続的にCCC改善に取り組んだ結果、リーマンショック以降、上期で最大の営業キャッシュ・フローになりました。

前年同期（69億円の収入）比で、大幅改善、売上債権の減少、仕入債務の増加、前受金の増加などの収入項目が、たな卸資産の増加などの支出項目を上回りました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー：28億円の支出

研究開発設備などの有形固定資産を取得したことなどにより増加（3億円）しました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー：182億円の支出

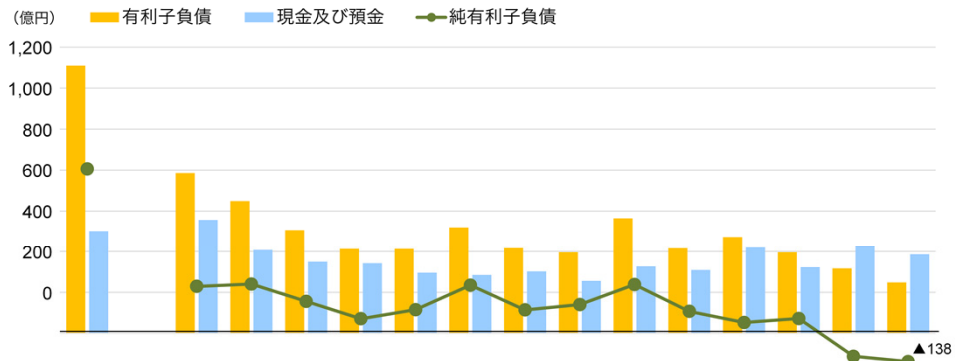
社債の償還（6月と9月）や配当金の支払いなどによる支出です。

各事業会社のCCC改善への取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間末における、現金及び現金同等物は、前年度末（2016/3月末）に比べ、64億円増加し、366億円となりました。

以上の結果、フリー・キャッシュ・フロー(FCF)は、269億円の高水準に（前年同期は44億円）になりました。今後もFCFの最大化を目指していきます。



連結有利子負債



	2010/3	2014/3月期				2015/3月期				2016/3月期				2017/3月期	
	6月 末	6月 末	9月 末	12月 末	3月 末	6月 末	9月 末	12月 末	3月 末	6月 末	9月 末	12月 末	3月 末	6月 末	9月 末
有利子負債	1,310	786	649	507	413	413	520	417	396	565	416	473	396	317	248
現金及び預金	502	557	408	350	342	298	285	302	256	327	309	420	323	429	386
純有利子負債	807	229	240	156	71	115	235	114	140	238	107	53	72	▲112	▲138

- 有利子負債248億円、社債（6月と9月）を償還したことなどにより、前期末（2016/3月末）比で148億円減少しました。
- 純有利子負債は▲138億円、前期末比で211億円の減少しました。前四半期1Q末に続き、138億円のネットキャッシュポジションとなりました。期末に向けては、100億円レベルのネットキャッシュポジションを予想しています。

1. 2017年3月期 第2四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画の進捗

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

## 2017年3月期 業績予想

(億円)	上期		下期		通期		増減
	8月発表	実績	8月発表	11月発表	8月発表	11月発表	
売上高	1,330	1,361	1,320	1,479	2,650	2,840	190
SE	869	916	821	983	1,690	1,900	210
GP	276	260	299	284	575	545	▲30
FT	178	179	182	195	360	375	15
その他	7	4	18	15	25	20	▲5
営業利益	117	121	153	168	270	290	20
営業利益率	8.8%	8.9%	11.6%	11.4%	10.2%	10.2%	0.0pt
経常利益	114	116	151	163	265	280	15
親会社株主に帰属する 当期純利益	85	94	120	135	205	230	25

注) 想定為替レート>> 1USドル=105円、1ユーロ=115円

注) 年間配当金予想>> 期末配当1株当たり70.00円 (2016年10月1日の株式併合後)

●2017年3月期の業績予想：売上、利益ともに上方修正しました。

- ・SE事業：足元の高水準な受注状況から、売上と利益が8月時の予想を上回る見込みとなりました。

期初からの好調な受注状況から、売上と利益が想定を上回り、通期予想は、今期、2回目の上方修正をしました。

- ・GP事業：通期予想を今期、2回目の下方修正をしましたが、1Qのdrupa前の買い控えと、為替などのマイナス影響によるものです。
- ・FT事業：下期の13億円増収予想を受け、通期で15億円の上方修正をしました。

1. 2017年3月期 第2四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画の進捗

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

## 中期3カ年経営計画 &lt;2014年4月-2017年3月&gt;

## 3つの目標：

①収益構造改革の完遂  
最終年度の営業利益率10%以上

②財務体質の強化  
最終年度の自己資本比率50%以上

③新規事業領域での事業化  
4つの新規事業領域で黒字化

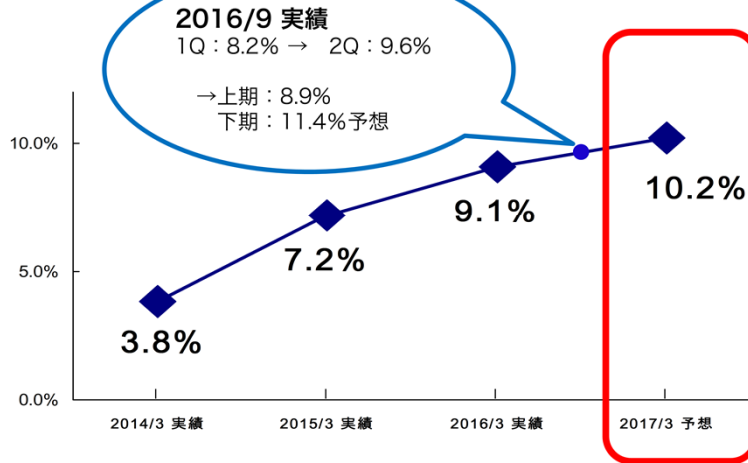
完遂は視野に！

達成時期、延期

→FT・新規は着実に伸長

## 「Challenge2016」の進捗

目標①：収益構造改革の完遂&gt;&gt; 営業利益率10%以上目指す

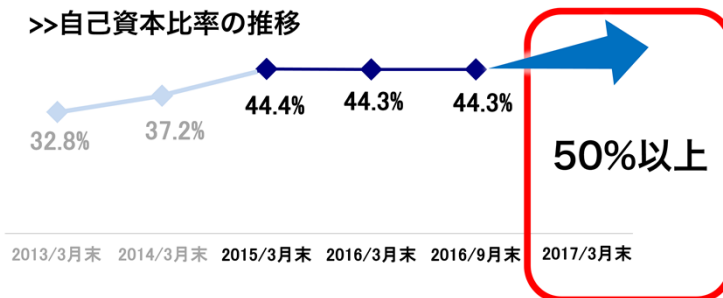


&gt;&gt;達成は視野に。下期、営業利益11%以上と予想

## 「Challenge2016」の進捗

## 目標②：財務体質の強化：自己資本比率50%以上

&gt;&gt;自己資本比率の推移



## ●現状&gt;&gt;

円高の影響で為替換算調整勘定が減少したものの、増益に伴い純資産は増加。一方、売上債権の回収に伴い現預金が増加。受注も好調でたな卸資産も増加したことから自己資本比率は、44.3%となった。

## ●下期の施策&gt;&gt;

増加する現預金を見合いに、負債サイド（借入金など）の削減を行い、バランスシートの圧縮を図る。

## 「Challenge2016」の進捗

## 目標③：新規領域での事業化&gt;&gt; 新規事業領域で黒字化を目指す

2016/3期>> 各分野で事業化に向けて製品化が進み、  
4領域すべて導入実績へと大きく前進した

2017/3期>> ●エネルギー（FT・成膜技術関連）が受注・売上ともに伸長  
・リチウムバッテリーの電極材料の塗布装置  
（ウェット/ドライ成膜装置、大学などの研究機関へも）  
→来期以降に黒字化

- ライフサイエンス
- 検査計測
- プリントドエレクトロニクス

想定より遅延。  
来期以降に、  
売上拡大と黒字化を

- 新規事業4事業のうち、エネルギー（FT:成膜技術関連）については、受注・売上も伸びており、来期以降の黒字化を目指しています。
- 他の3事業（ライフサイエンス、検査計測、PtE）に関しては、評価に想定以上の期間を要しており、来期以降に受注・売上の拡大ならびに黒字化を目指してまいります。



1. 2017年3月期 第2四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画の進捗

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

## 2016年8~10月

- HD>> ● 株式併合(5株→1株)、単元株数を100株に変更  
● 次世代リチウムイオン電池開発の米国ベンチャーに出資  
● 知的財産管理の機能会社「株式会社SCREEN IP ソリューションズ」設立  
10月1日営業を開始  
● ソフトウェア関連事業会社「株式会社SCREENアドバンスドシステム  
ソリューションズ」設立。10月1日営業を開始  
● 「国連グローバル・コンパクト」への参加
- SE事業>> ● 枚葉式洗浄装置「SU-3300」を発表  
(世界最高水準の生産性と高い処理性能)  
● IBM Researchとニューヨーク・アルバニーでの最先端  
ロジックプロセス共同研究に合意
- GP事業>> ● PE、2017年4月1日にGPから分離独立、新事業会社設立  
電子デバイス業界に合致した事業運営を図る
- FT事業>> ● 上海にファインテックソリューション事業子会社  
「SCREEN Finetech Solutions Shanghai Co., Ltd.」を設立、9月1日営業開始

**SCREEN**

**Fit your needs, Fit your future**

